

現代では多くの子どもたちが日常的にLINEやTwitterなどのSNSを利用しています。それに伴い、新たなトラブルや問題に遭遇したり、ときには犯罪に巻き込まれてしまったりする可能性もあります。

今回は、児童・生徒をもつ保護者が知っておきたいSNSの特徴や、SNSによるトラブルなどについて解説します。

ほとんどのSNSには、年齢制限が設けられていることをご存知でしょうか。例えば「Twitter」サービス利用規約によると、このアカウントを作るのは13歳以上という年齢制限が設けられています。FacebookやYouTubeなども同様に、アカウントの作成には13歳以上という制限があります。LINEの場合は年齢制限が設けられていないことになっていますが、18歳未満の利用者はLINEのID設定およびID検索ができないという一部の機能に制限がかけられています。

そして、子どもたちがこういったSNSを利用して遭遇する可能性のあるトラブル・問題には、次のようなものが考えられます。

- ・ SNSへの依存
- ・ SNSを通じていじめの対象にされる、またはいじめへの加担(悪



※地域おこし協力隊がこのコーナーを順番に担当しています。お楽しみに

地域おこし協力隊 ICT支援員 伊藤 章裕 さん

Activity Report

地域おこし協力隊 ～活動レポート～

□・仲間外れなど)
 個人の写真や書き込みの投稿による個人情報流出
 ・自身の投稿に対する批判や誹謗中傷などを含む投稿の集中
 ・他者への誹謗中傷
 ・自作ではない写真や動画、イラスト、音楽などをアップロードすることによる著作権の侵害
 ・だまされて裸の写真を送られるなどの自撮り被害
 ・アカウントの乗っ取り被害
 ・SNS上で知り合った相手と実際に会ってしまうことによる、つきまといなどの被害

こういったトラブルは年々多様化しており、件数も増加傾向にあるようです。それでは、子どもたちがこうしたトラブルに遭わないようにするためには、保護者は何をすればよいのでしょうか。

次回、この続きについてお話ししたいと思います。

※ SNS: インターネット上で交流できる会員制サービスの総称

Kids

わんぱくキッズ (子育て支援センター)



ふじた りんちゃん



やすもと そうくん



いしざわ かのんちゃん



Everyone's infirmary

みんなの保健室

がん検診、受けていますか？

今や国民の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなると言われ、誰もががんになる可能性があります。新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的にがん検診の受診率が例年に比べて低くなっていますが、皆さんが安心して受診できるよう、検診会場では感染対策を講じたうえで実施しています。がんを早期発見し、早期治療につなげるチャンスとして、定期的にごがん検診を受診しませんか。

検診のメリット

- ①無症状・初期段階の病変も発見でき、早期治療につながる。
 早期であれば治せる可能性は非常に高く、治療も軽く済むことが多いので、がんによる死亡率を低下させることができます。
 また、がんになる前段階のポリープや腫瘍なども発見できる可能性があり、がんになる前に早期に治療できます。
- ②下表のがん検診は、町から補助があり、実際にかかる費用よりも安く受けられます。
 (例: 胃がん検診 約10,000円のところ、町の検診では自己負担2,000円など)

※検査によっては体に負担がかかってしまう場合がありますので、受ける検査のことをよく知ったうえで検査を受けるようにしてください。

※詳しくは保健福祉課保健係までお問い合わせください。



	対象	内容	推奨受診間隔	料金
肺がん	40歳以上	胸のレントゲンで肺の病変を診断する検査	1年に1度	500円
胃がん	40歳以上	バリウムを飲んでレントゲンで胃の病変を映し出す検査	1年に1度	2,000円
大腸がん	40歳以上	2日分の便をとって血が混じっていないかをみる検査	1年に1度	500円
乳がん	40歳以上の女性	マンモグラフィ(乳房のレントゲン)による検査	2年に1度	2,000円
子宮がん	20歳以上の女性	子宮頸部の細胞をとって病変を診断する検査	2年に1度	1,500円
前立腺がん	50歳以上の男性	採血で腫瘍マーカー(PSA)の値を調べる検査	1年に1度	500円

※すでに自覚症状がある人は、検診を待たずに医療機関を受診しましょう。

おうむすこやか健診の詳細については、町ホームページでも確認できます。

町保健福祉課保健係